令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果
－分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　　名　西区

学 校 名　大阪市立明治小学校

学校長名　酒居　国宏

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和６年４月18日（木）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語
・算数

(2) 質問調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・明治小学校では、第６学年　５０名

学校名　大阪市立明治小学校

令和６年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

教科に関する調査結果においては、国語と算数ともに平均正答率で、全国の平均値ならびに大阪市の平均値を下回る結果であった。特に算数は対全国比で8ポイントを超える差があり、課題がある結果となった。また、算数については、無解答率において対全国比で３ポイント高い結果となり、思考・判断・表現を評価の観点とした問題かつ解答形式が記述式の問題に対してその傾向が顕著であった。思考・判断した内容を文章で説明するにあたって、何とか解答しようと努力する前にあきらめてしまいがちな児童が一定数いることが課題と考えられる。正答率の分布においては、正答率30％程度以下の児童が、国語においては全体の約16％、算数においては全体の約26％見られ、学力の底上げが必要な結果であった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］昨年度および今年度にかけて国語を研究教科とし、大阪市の学力向上に向けた支援を受けながら主体的、対話的で深い学びを実現するための授業改善に取り組んでいる。物語教材において主語と述語の関係を捉えたり、登場人物の関係や心情などについて描写に基づき捉えたりする問題において対全国比を上回るあるいはほぼ肩を並べる正答率であり、研究の成果がうかがわれる。一方、事実と感想、意見とを区別しながら明確に記述する問題や理由を明確にして自分が心に残ったことを記述する問題においては対全国比で正答率も低く、無解答率ではどちらも10％をゆうに超える児童が無解答であった。書くことに課題が見られる結果であった。
［算数］大阪市教育委員会のブロック化による学校支援事業を活用し、振り返りのためのドリル問題集等を準備し取り組むことによって、算数の基礎・基本の定着に努めているところである。今回の算数の調査問題においては、基礎・基本を活用するような問いに対して十分に解答できないという課題が浮き彫りになった。特に図形の領域やデータ活用の領域において、既習内容を活用して考えた理由について言葉や数で記述したり、グラフから必要な数値を読み取り条件に当てはまる内容を言葉や数を用いて記述したりすることに顕著な課題が見られる結果であった。

質問調査より

児童質問調査においては、成果と課題が混在する様子が見られた。「自分にはよいところがあると思うか」という問いに対しては、大阪市全体ならびに全国の傾向と比べて肯定的回答が少ない結果であった。自分に自信を持ち切れていない児童が25％近くいることに課題がうかがわれる。「先生が認めてくれていると思うか」「将来の夢や目標を持っているか」「人が困っているときは、進んで助けているか」といった問いに対しては、肯定的な回答率が大阪市全体や全国の数値を上回ったり、ほぼ同様の回答率だったりであった。本校の取り組みの成果が表れているとともに、健全な望ましい心が育ちつつあることがうかがわれる。学級の友達との間で話し合う活動についての設問において、最も肯定的な「当てはまる」という回答率が50％と半数に達している。この点は、協働的な学びを中心に授業改善に取り組んでいる成果と捉え、今後の学力向上に向けた鍵として、引き続き取り組みを強化していきたい。

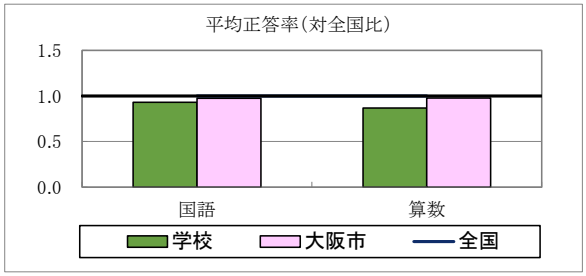
今後の取組(アクションプラン)

学力向上にとって欠かせない力は、言語力の向上であると捉えている。そこで、これまでも取り組んできている読書活動の活性化や読書の機会や場の提供には、引き続き取り組み、児童が言語表現に親しみ、その魅力を味わいながら言語力の向上に結び付くよう支援していきたい。また、児童の協働的な学びを通して、学びを深めていく授業づくりを全ての教科において今後も進めていきたい。学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると肯定的に回答する児童が80％近くいた。この点を強みとして、さらなる授業改善を重ね、主体的・対話的に学びながら、学びを深めていく児童を育成し、学力を学校全体で向上させていけるよう取り組んでいきたい。

【 全体の概要 】

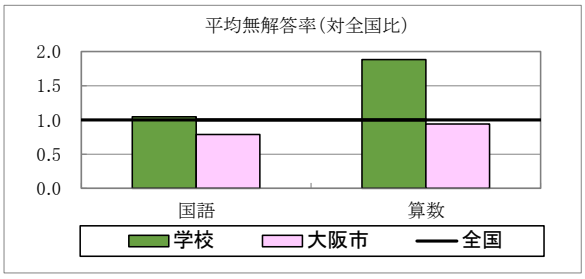
平均正答率（%）

	国語	算数
学校	63	55
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4



平均無解答率（%）

	国語	算数
学校	4.4	6.4
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4

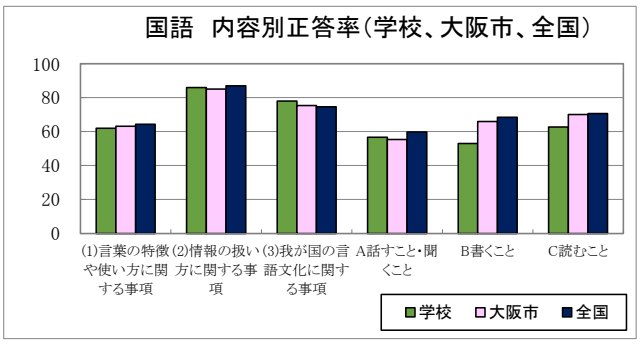


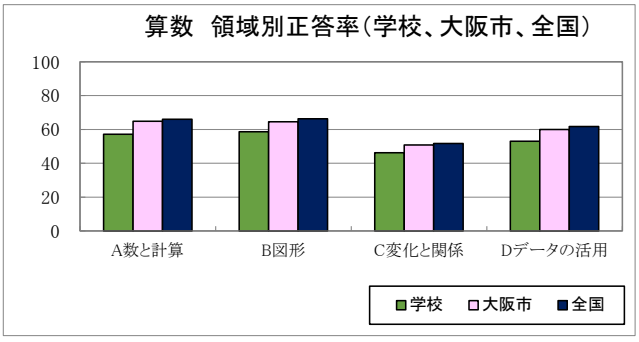
【 国 語 】

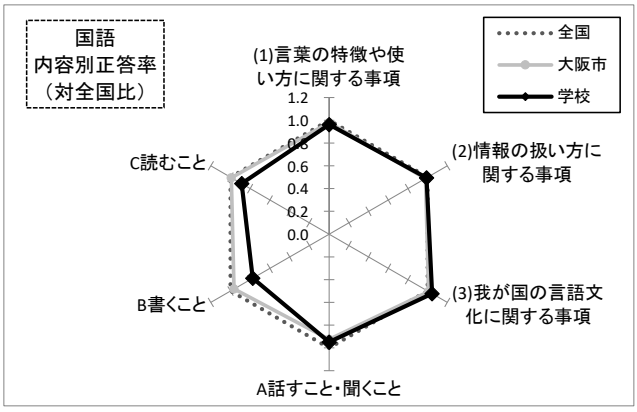
学習指導要領の内容	対象設問数（問）	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	4	62.0	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に関する事項	1	86.0	85.0	86.9
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	78.0	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	56.7	55.3	59.8
B 書くこと	2	53.0	65.9	68.4
C 読むこと	3	62.7	70.1	70.7

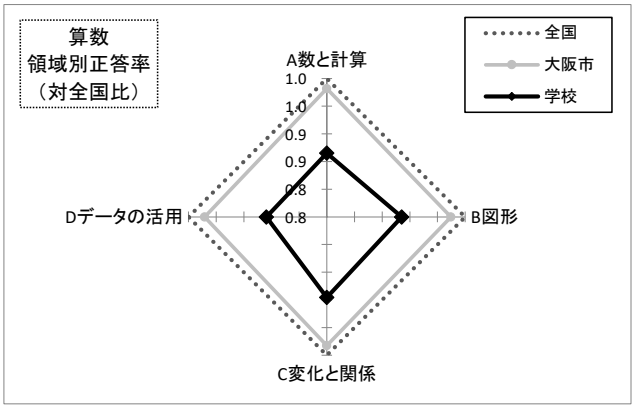
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数（問）	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	57.1	64.8	66.0
B 図形	4	58.7	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	46.3	50.8	51.7
D データの活用	4	53.1	60.0	61.8



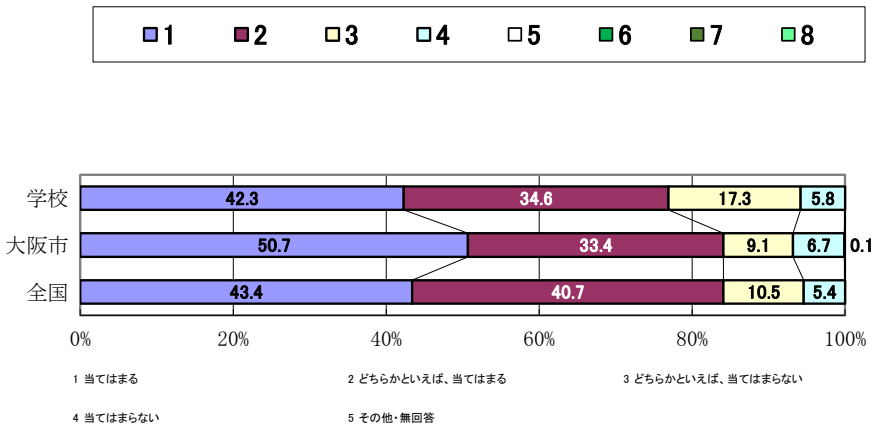




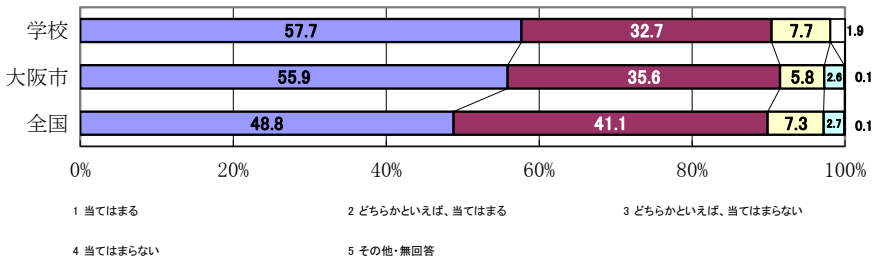


児童質問より

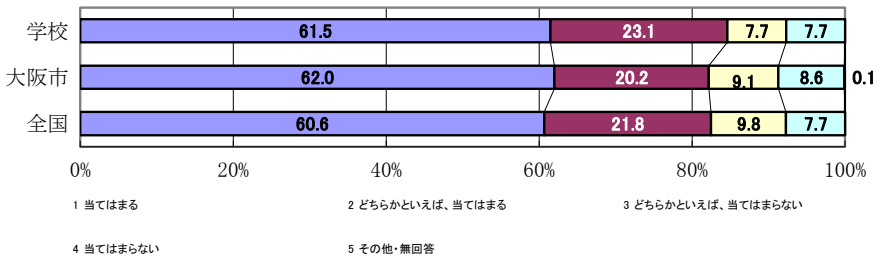
質問番号	質問事項
9	自分には、よいところがあると思いますか



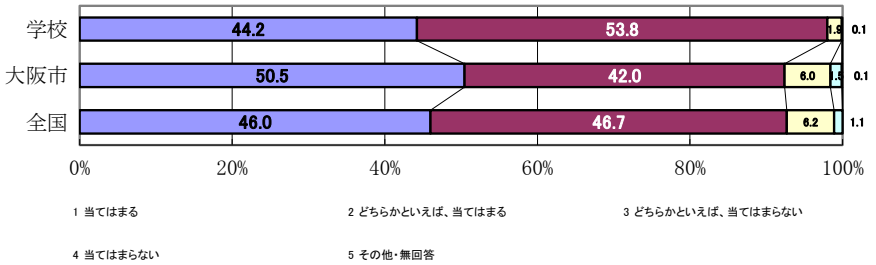
10	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



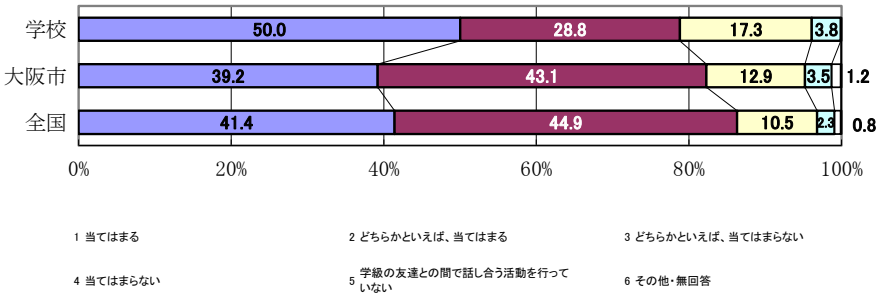
11	将来の夢や目標を持っていますか



12	人が困っているときは、進んで助けていますか



33	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



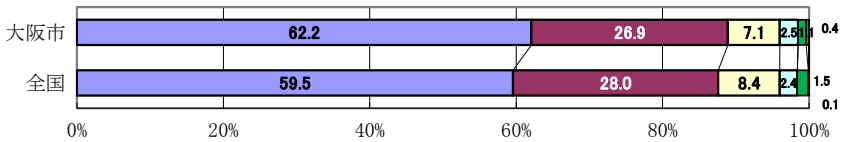
学校質問より

質問番号
質問事項

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

学校 「月に数回程度行った」を選択

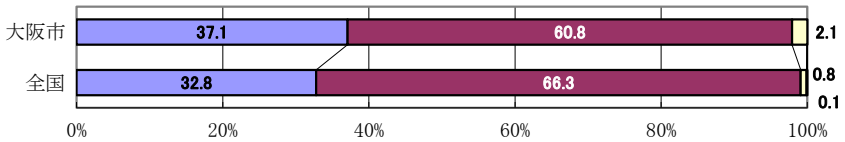


1 週に1回程度、または、それ以上行った　2 月に数回程度行った　3 学期に数回程度行った
4 年に数回程度行った　5 行わなかった　6 特に問題を抱えていなかった
7 その他・無回答

11

ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか

学校 「一部取り入れている」を選択

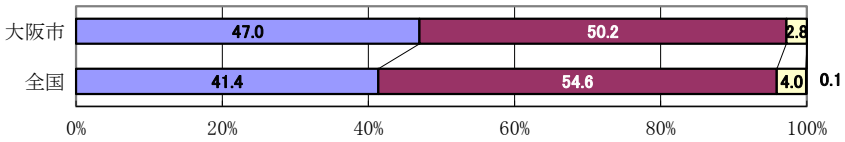


1 十分に取り入れている　2 一部取り入れている　3 全く取り入れていない
4 その他・無回答

15

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択

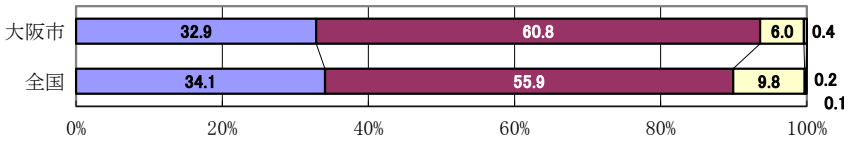


1 よくしている　2 どちらかといえば、している　3 あまりしていない
4 全くしていない　5 その他・無回答

17

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択

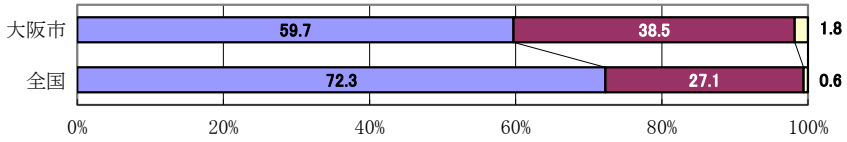


1 よくしている　2 どちらかといえば、している　3 あまりしていない
4 全くしていない　5 その他・無回答

23

教職員が困っているとき、互いに相談できる雰囲気があると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



1 そう思う　2 どちらかといえば、そう思う　3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない　5 その他・無回答